

# 運用報告書（全体版）

第12期

（決算日：2017年10月27日）

当ファンドの仕組みは、次の通りです。

商品分類	追加型投信／国内／株式	
信託期間とクローズド期間	原則として無期限（クローズド期間はありません）	
運用方針	ソフトバンク&SBIグループ株式・マザーファンド受益証券への投資を通じて、信託財産の中長期的な成長をめざして運用を行います。	
主要運用対象	当ファンド（ベビーフンド）	ソフトバンク&SBIグループ株式・マザーファンド受益証券を主要投資対象とします。なお、株式等に直接投資することもあります。
	マザーファンド	わが国の金融商品取引所上場株式のうちソフトバンクグループ株式会社、SBIホールディングス株式会社及びそれらのグループ関連企業の株式を主な投資対象とします。
組入制限	当ファンド（ベビーフンド）	株式への実質投資割合に制限を設けません。外貨建資産への投資は行いません。
	マザーファンド	株式への投資割合に制限を設けません。外貨建資産への投資は行いません。
分配方針	毎決算時に、基準価額水準及び市場動向等を勘案して分配を行います。ただし分配対象額が少額の場合等、委託者の判断により収益分配を行わないこともあります。	

## ソフトバンク& SBIグループ 株式ファンド

追加型投信／国内／株式

受益者のみなさまへ

平素は格別のご愛顧を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、「ソフトバンク&SBIグループ株式ファンド」は、2017年10月27日に第12期決算を行いました。

ここに期中の運用状況をご報告申し上げます。

今後とも引き続きお引き立て賜りますようお願い申し上げます。

## SBIアセットマネジメント株式会社

〒106-6017 東京都港区六本木1-6-1

お問い合わせ先

電話番号 03-6229-0097

受付時間：営業日の9：00～17：00

ホームページから、ファンドの商品概要、レポート等をご覧いただけます。

<http://www.sbiam.co.jp/>

 SBI Asset Management

## ○最近5期の運用実績

決算期	基準 (分配落)	価額			株式 組入比率	純資産 産額
		税 分	込 配	み 金 期 騰 落 率		
	円		円	%	%	百万円
8期(2013年10月28日)	13,429		0	199.8	94.9	2,259
9期(2014年10月27日)	11,205		0	△ 16.6	95.7	1,484
10期(2015年10月27日)	12,268		0	9.5	95.8	1,176
11期(2016年10月27日)	10,942		0	△ 10.8	98.2	1,014
12期(2017年10月27日)	15,316		0	40.0	95.1	1,351

(注1) 当ファンドは、ソフトバンクグループ株式会社、SBIホールディングス株式会社及びそれらのグループ関連企業の株式(以下、「ソフトバンク&SBIグループ株式」といいます。)に投資を行うという特色を持つファンドであり、特定のベンチマーク及び参考指数等は採用していません。

(注2) 当ファンドは親投資信託を組入れますので、「株式組入比率」は実質比率を記載しております。

## ○当期中の基準価額と市況等の推移

年 月 日	基準 価額	騰 落 率	株式 組入比率
(期首) 2016年10月27日	円 10,942	% -	% 98.2
10月末	10,853	△ 0.8	98.2
11月末	11,101	1.5	97.8
12月末	12,288	12.3	98.0
2017年1月末	13,322	21.8	95.6
2月末	13,522	23.6	97.1
3月末	13,175	20.4	98.4
4月末	13,214	20.8	95.4
5月末	13,844	26.5	96.2
6月末	13,870	26.8	97.5
7月末	13,876	26.8	98.2
8月末	13,854	26.6	97.8
9月末	14,384	31.5	98.9
(期末) 2017年10月27日	円 15,316	% 40.0	% 95.1

(注1) 騰落率は期首比。

(注2) 当ファンドは、ソフトバンク&SBIグループ株式に投資を行うという特色を持つファンドであり、特定のベンチマーク及び参考指数等は採用していません。

(注3) 当ファンドは親投資信託を組入れますので、「株式組入比率」は実質比率を記載しております。

## ■当期の運用状況と今後の運用方針（2016年10月28日から2017年10月27日まで）

### ○基準価額等の推移



期首：10,942円

期末：15,316円（既払分配金（税込み）：0円）

騰落率：40.0%（分配金再投資ベース）

(注1) 当ファンドは、ソフトバンクグループ株式会社、SBIホールディングス株式会社及びそれらのグループ関連企業の株式（以下、「ソフトバンク&SBIグループ株式」といいます。）に投資を行うという特色を持つファンドであり、特定のベンチマーク及び参考指数等は採用していません。

(注2) 当ファンドは、設定日以降分配を行っていないため分配金再投資基準価額は記載していません。

### ○基準価額の主な変動要因

#### 上昇要因

マザーファンドを通じて投資するソフトバンクグループ、ヤフー等の株価の上昇が基準価額の上昇要因となりました。

#### 下落要因

マザーファンドを通じて投資する、アスクルや窪田製薬ホールディングス等の株価の下落が基準価額の下落要因となりました。

## ○投資環境

---

期首から年末にかけては、米国の年内利上げ観測の高まりを背景とした円安や、原油高を受けた欧米株高から、日本株も上昇基調となりました。米大統領選挙では予想外となるトランプ氏が大統領に就任することとなり、荒い値動きとなりましたが同氏の掲げる財政刺激策への期待から米国株が上昇基調となり、円安とともに上昇して年末を迎えました。年明け以降は、米国の政策動向に影響を受ける展開となりました。米トランプ大統領がアメリカ・ファーストを掲げる中、世界中で「保護主義」の文化が伝播するとの懸念や、米軍によるシリア攻撃や北朝鮮情勢などの地政学リスクの高まりから、一進一退となりました。その後は、地政学リスクの後退とともに企業業績への期待から上昇に転じ、10月に入ると日経平均株価は過去最長の16連騰を達成したほか、27日には1996年7月以来21年ぶりとなる22,000円台に乗せました。

## ○当ファンドのポートフォリオ

---

### <当ファンド>

ソフトバンク & SBIグループ株式・マザーファンド受益証券を高位に組入れて運用を行いました。

### <ソフトバンク & SBIグループ株式・マザーファンド>

ソフトバンクグループ、SBIホールディングス及びそれらのグループ関連企業の株式に投資することを運用目的としています。組入比率は、目論見書に記載の通り、原則として、組入銘柄の時価総額に比例（1銘柄の組入比率の上限は概ね50%）して決定し、3カ月ごとに組入比率の再調整を行いました。

個別銘柄別では、主要投資先であるソフトバンクグループとヤフーがプラスに寄与した一方、アスクルや窪田製薬ホールディングスがマイナス寄与となりました。ソフトバンクグループは、安定的な収益源である通信事業と投資事業、先行投資回収期間が長期に亘るアーム事業など多岐にわたっています。ワイモバイルを中心とするMVNOの拡大に伴う通信事業者のARPU（1契約当たりの売上）減によって、国内通信事業は減益基調となっています。しかしながら、テクノロジー分野への投資が続いていることでビジネスモデルの変化が好感されたほか、アリババの株価上昇も追い風となり堅調推移となりました。ヤフーは、17年に連結子会社アスクルの物流センターで火災が発生したことに伴う損失が膨らみ、営業利益は減益となる局面がみられたものの、足元の業績は堅調なものとなりました。検索連動型広告が好調であることや、コマース事業ではソフトバンクのスマホユーザーは自動的にYahoo!プレミアム会員になれるという新たな施策を開始、ポイント還元の強化施策を打つことで取扱高増加を目指し、ショッピング事業の取扱高は拡大基調となっており株価は底堅く推移しました。

当期の組入銘柄の異動は以下のとおりです。アキュセラ・インクは三角合併による組織再編で、発足する日本法人名を「窪田製薬ホールディングス」としました。これに伴い、アキュセラ・インクから窪田製薬ホールディングスに1:1の株式交換を行いました。株式会社ソルクシーズは、SBIホールディングス株式会社の持分法適用関連会社から外れたことから全株売却しました。

## ○当ファンドのベンチマークとの差異

---

当ファンドは、ソフトバンクグループ株式会社、SBIホールディングス株式会社及びそれらのグループ関連企業の株式（以下、「ソフトバンク & SBIグループ株式」といいます。）に投資を行うという特色を持つファンドであり、特定のベンチマーク及び参考指数等は採用しておりません。

## ○分配金

当期の収益分配金につきましては、基準価額水準、市況動向等を勘案し、見送ることといたしました。

なお、収益分配に充てなかった利益につきましては、信託財産に留保し、運用の基本方針に基づいて運用いたします。

### 分配原資の内訳

(単位：円、1万口当たり、税込み)

項 目	第12期
	2016年10月28日～ 2017年10月27日
当期分配金	—
(対基準価額比率)	—%
当期の収益	—
当期の収益以外	—
翌期繰越分配対象額	5,316

(注1) 対基準価額比率は当期分配金(税込み)の期末基準価額(分配金込み)に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

(注2) 当期の収益、当期の収益以外は小数点以下切捨てで算出しているため合計が当期分配金と一致しない場合があります。

## ○今後の運用方針

### <当ファンド>

引き続き当ファンドの基本方針に基づき、ソフトバンク&SBIグループ株式・マザーファンドを通じて、ソフトバンク&SBIグループ株式に投資します。

### <ソフトバンク&SBIグループ株式・マザーファンド>

引き続きソフトバンクグループ、SBIホールディングス及びそれらのグループ関連企業の株式に投資します。組入比率は、目論見書に記載の通り、原則として、組入銘柄の時価総額に比例(1銘柄の組入比率の上限は概ね50%)して決定し、3カ月ごとに組入比率の再調整を行います。

## ○ 1 万口当たりの費用明細

(2016年10月28日～2017年10月27日)

項 目	当 期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
(a) 信 託 報 酬	円 119	% 0.907	(a) 信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率
( 投 信 会 社 )	( 57 )	( 0.432 )	委託した資金の運用の対価
( 販 売 会 社 )	( 57 )	( 0.432 )	交付運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理、購入後の 情報提供等の対価
( 受 託 会 社 )	( 6 )	( 0.043 )	運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
(b) 売 買 委 託 手 数 料	7	0.057	(b) 売買委託手数料＝期中の売買委託手数料÷期中の平均受益権口数 ※売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
( 株 式 )	( 7 )	( 0.057 )	
(c) そ の 他 費 用	4	0.027	(c) その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数
( 監 査 費 用 )	( 4 )	( 0.027 )	監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
( そ の 他 )	( 0 )	( 0.000 )	信託事務の処理等に要するその他費用
合 計	130	0.991	
期中の平均基準価額は、13,108円です。			

(注1) 期中の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注2) 消費税は報告日の税率を採用しています。

(注3) 項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注4) 売買委託手数料及びその他費用は、当ファンドが組み入れているマザーファンドが支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。

(注5) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。

## ○ 売買及び取引の状況

(2016年10月28日～2017年10月27日)

### 親投資信託受益証券の設定、解約状況

銘 柄	設 定		解 約	
	口 数	金 額	口 数	金 額
ソフトバンク&SBIグループ株式・マザーファンド	千口 185,829	千円 273,000	千口 236,486	千円 352,000

(注) 単位未満は切捨て。

## ○株式売買比率

(2016年10月28日～2017年10月27日)

### 株式売買金額の平均組入株式時価総額に対する割合

項 目	当 期	
	ソフトバンク&SBIグループ株式・マザーファンド	
(a) 期中の株式売買金額		518,473千円
(b) 期中の平均組入株式時価総額		1,176,215千円
(c) 売買高比率 (a) / (b)		0.44

(注1) (b)は各月末現在の組入株式時価総額の平均。

(注2) 金額の単位未満は切捨て。

## ○利害関係人との取引状況等

(2016年10月28日～2017年10月27日)

### 利害関係人との取引状況

該当事項はありません。

### 利害関係人の発行する有価証券等

#### <ソフトバンク&SBIグループ株式ファンド>

該当事項はありません。

#### <ソフトバンク&SBIグループ株式・マザーファンド>

種 類	買 付 額	売 付 額	当 期 末 保 有 額
	百万円	百万円	百万円
株式	15	15	72

利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人であり、当ファンドに係る利害関係人とはソルクシーズ、モーニングスター、SBIホールディングスです。

## ○組入資産の明細

(2017年10月27日現在)

### 親投資信託残高

銘 柄	期首(前期末)	当 期 末	
	口 数	口 数	評 価 額
ソフトバンク&SBIグループ株式・マザーファンド	千口 845,513	千口 794,857	千円 1,345,613

(注) 単位未満は切捨て。

マザーファンドにおける組入資産の明細につきましては、後述のマザーファンドの「運用報告書」をご参照ください。

## ○投資信託財産の構成

(2017年10月27日現在)

項 目	当 期 末	
	評 価 額	比 率
ソフトバンク&SBIグループ株式・マザーファンド	千円 1,345,613	% 97.6
コール・ローン等、その他	33,508	2.4
投資信託財産総額	1,379,121	100.0

(注) 評価額の単位未満は切捨て。

## ○特定資産の価格等の調査

該当事項はありません。

## ○資産、負債、元本及び基準価額の状況 (2017年10月27日現在)

項 目	当 期 末
	円
(A) 資産	1,379,121,060
コール・ローン等	33,507,542
ソフトバンク&SB1グループ株式・マザーファンド(評価額)	1,345,613,518
(B) 負債	27,495,367
未払解約金	21,651,006
未払信託報酬	5,682,126
未払利息	91
その他未払費用	162,144
(C) 純資産総額(A-B)	1,351,625,693
元本	882,471,903
次期繰越損益金	469,153,790
(D) 受益権総口数	882,471,903口
1万口当たり基準価額(C/D)	15,316円

<注記事項(運用報告書作成時には監査未了)>  
(貸借対照表関係)

期首元本額	926,915,450円
期中追加設定元本額	379,789,957円
期中一部解約元本額	424,233,504円

## ○損益の状況 (2016年10月28日～2017年10月27日)

項 目	当 期
	円
(A) 配当等収益	△ 8,968
支払利息	△ 8,968
(B) 有価証券売買損益	317,865,142
売買益	403,608,872
売買損	△ 85,743,730
(C) 信託報酬等	△ 11,421,790
(D) 当期繰越損益金(A+B+C)	306,434,384
(E) 前期繰越損益金	△ 77,170,241
(F) 追加信託差損益金	239,889,647
(配当等相当額)	( 137,737,543)
(売買損益相当額)	( 102,152,104)
(G) 計(D+E+F)	469,153,790
(H) 収益分配金	0
次期繰越損益金(G+H)	469,153,790
追加信託差損益金	239,889,647
(配当等相当額)	( 138,031,540)
(売買損益相当額)	( 101,858,107)
分配準備積立金	229,264,143

(注1) 損益の状況の中で(B)有価証券売買損益は期末の評価換えによるものを含みます。

(注2) 損益の状況の中で(C)信託報酬等には信託報酬に対する消費税等相当額を含めて表示しています。

(注3) 損益の状況の中で(F)追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。

(注4) 計算期間末における費用控除後の配当等収益(13,918,804円)、費用控除後の有価証券等損益額(162,498,986円)、信託約款に規定する収益調整金(239,889,647円)および分配準備積立金(52,846,353円)より分配対象収益は469,153,790円(10,000口当たり5,316円)ですが、当期に分配した金額はありません。

# 第12期 運用報告書

(決算日 2017年10月27日)

## ソフトバンク & SBI グループ株式・マザーファンド

### 受益者のみなさまへ

ソフトバンク & SBI グループ株式・マザーファンドの第12期（2016年10月28日から2017年10月27日まで）の運用状況をご報告申し上げます。

当マザーファンドの仕組みは次の通りです。

運 用 方 針	この投資信託は、わが国金融商品取引所上場株式のうちソフトバンクグループ株式会社、SBIホールディングス株式会社及びそれらのグループ関連企業の株式（以下、「ソフトバンク & SBI グループ株式」といいます。）を主要投資対象とし、信託財産の中長期的な成長をめざして運用を行います。
主 要 運 用 対 象	わが国の金融商品取引所上場株式のうちソフトバンクグループ株式会社、SBIホールディングス株式会社及びそれらのグループ関連企業の株式を主な投資対象とします。
組 入 制 限	株式の投資割合には制限を設けません。 外貨建資産への投資は、行いません。

## ○最近5期の運用実績

決 算 期	基 準	価 額		株 組 入 比 率	純 資 産 額
		騰 落	中 率		
8期(2013年10月28日)	円		%	%	百万円
	14,357		202.8	95.4	2,247
9期(2014年10月27日)	12,048	△	16.1	96.0	1,479
10期(2015年10月27日)	13,309		10.5	96.4	1,168
11期(2016年10月27日)	11,976	△	10.0	98.4	1,012
12期(2017年10月27日)	16,929		41.4	95.5	1,345

(注1) 当ファンドは、ソフトバンク&SBIグループ株式に投資を行うという特色を持つファンドであり、特定のベンチマーク及び参考指数等は採用しておりません。

(注2) 株式組入比率は純資産総額に対する評価額の比率です。

## ○当期中の基準価額と市況等の推移

年 月 日	基 準	価 額		株 組 入 比 率
		騰 落	率	
(期 首) 2016年10月27日	円		%	%
	11,976		—	98.4
10月末	11,879	△	0.8	98.4
11月末	12,161		1.5	98.0
12月末	13,474		12.5	98.2
2017年1月末	14,624		22.1	94.9
2月末	14,854		24.0	97.2
3月末	14,483		20.9	98.6
4月末	14,537		21.4	95.5
5月末	15,244		27.3	96.3
6月末	15,285		27.6	97.7
7月末	15,305		27.8	97.8
8月末	15,293		27.7	98.1
9月末	15,891		32.7	99.2
(期 末) 2017年10月27日				
	16,929		41.4	95.5

(注1) 騰落率は期首比。

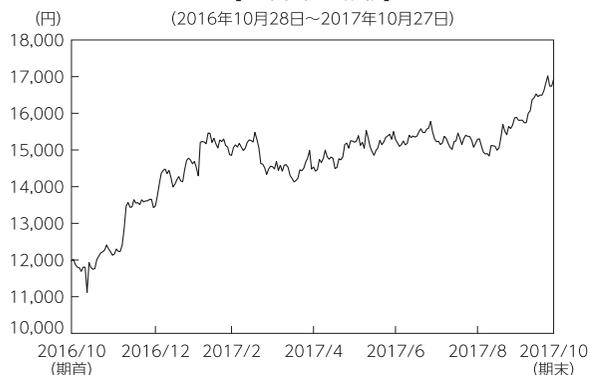
(注2) 当ファンドは、ソフトバンク&SBIグループ株式に投資を行うという特色を持つファンドであり、特定のベンチマーク及び参考指数等は採用しておりません。

(注3) 株式組入比率は純資産総額に対する評価額の比率です。

## ■当期の運用状況と今後の運用方針（2016年10月28日から2017年10月27日まで）

### ○運用経過

【基準価額の推移】



当マザーファンドの基準価額は、期首11,976円から始まったあと、期末には16,929円となりました。期を通じて騰落率は41.4%の上昇となりました。

	期首	期中高値	期中安値	期末
日付	2016/10/27	2017/10/24	2016/11/9	2017/10/27
基準価額 (円)	11,976	17,022	11,119	16,929

【組入上位10銘柄】

(2017年10月27日現在)

	銘柄名	業種 / 種別等	通貨	国(地域)	比率 %
1	ソフトバンクグループ	情報・通信業	円	日本	48.4
2	ヤフー	情報・通信業	円	日本	37.7
3	SBIホールディングス	証券・商品先物取引業	円	日本	5.1
4	アスクル	小売業	円	日本	2.1
5	ソフトバンク・テクノロジー	情報・通信業	円	日本	0.6
6	パルビューコマース	サービス業	円	日本	0.4
7	モーニングスター	サービス業	円	日本	0.4
8	窪田製薬ホールディングス	医薬品	円	日本	0.3
9	ブックオフコーポレーション	小売業	円	日本	0.2
10	アイティメディア	サービス業	円	日本	0.2
	組入銘柄数		13銘柄		

(注1) 比率は、純資産総額に対する割合です。

(注2) 国(地域)につきましては発行国を表示しております。

## ○当ファンドのポートフォリオ

---

ソフトバンクグループ、SBIホールディングス及びそれらのグループ関連企業の株式に投資することを運用目的としています。組入比率は、目論見書に記載の通り、原則として、組入銘柄の時価総額に比例（1銘柄の組入比率の上限は概ね50%）して決定し、3カ月ごとに組入比率の再調整を行いました。

個別銘柄別では、主要投資先であるソフトバンクグループとヤフーがプラスに寄与した一方、アスクルや窪田製薬ホールディングスがマイナス寄与となりました。ソフトバンクグループは、安定的な収益源である通信事業と投資事業、先行投資回収期間が長期に亘るアーム事業など多岐にわたっています。ワイモバイルを中心とするMVNOの拡大に伴う通信事業者のARPU（1契約当たりの売上）減によって、国内通信事業は減益基調となっています。しかしながら、テクノロジー分野への投資が続いていることでビジネスモデルの変化が好感されたほか、アリババの株価上昇も追い風となり堅調推移となりました。ヤフーは、17年に連結子会社アスクルの物流センターで火災が発生したことに伴う損失が膨らみ、営業利益は減益となる局面がみられたものの、足元の業績は堅調なものとなりました。検索連動型広告が好調であることや、コマース事業ではソフトバンクのスマホユーザーは自動的にYahoo!プレミアム会員になれるという新たな施策を開始、ポイント還元の強化施策を打つことで取扱高増加を目指し、ショッピング事業の取扱高は拡大基調となっており株価は底堅く推移しました。

当期の組入銘柄の異動は以下のとおりです。アキュセラ・インクは三角合併による組織再編で、発足する日本法人名を「窪田製薬ホールディングス」としました。これに伴い、アキュセラ・インクから窪田製薬ホールディングスに1：1の株式交換を行いました。株式会社ソルクシーズは、SBIホールディングス株式会社の特分法適用関連会社から外れたことから全株売却しました。

## ○今後の運用方針

---

引き続きソフトバンクグループ、SBIホールディングス及びそれらのグループ関連企業の株式に投資します。組入比率は、目論見書に記載の通り、原則として、組入銘柄の時価総額に比例（1銘柄の組入比率の上限は概ね50%）して決定し、3カ月ごとに組入比率の再調整を行います。

## ○1万口当たりの費用明細

(2016年10月28日～2017年10月27日)

項 目	当 期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
(a) 売 買 委 託 手 数 料 ( 株 式 )	円 8 (8)	% 0.057 (0.057)	(a) 売買委託手数料＝期中の売買委託手数料÷期中の平均受益権口数 ※売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
(b) そ の 他 費 用 ( そ の 他 )	0 (0)	0.000 (0.000)	(b) その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数  信託事務の処理等に要するその他費用
合 計	8	0.057	
期中の平均基準価額は、14,419円です。			

(注1) 期中の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注2) 項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注3) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。

## ○売買及び取引の状況

(2016年10月28日～2017年10月27日)

### 株式

国	上場	買 付		売 付	
		株 数	金 額	株 数	金 額
内		千株 266 ( 7)	千円 202,066 ( 6,234)	千株 249	千円 310,172
外	ユーロエン	百株 —	千ユーロエン —	百株 61	千ユーロエン 6,234

(注1) 金額は受渡し代金。

(注2) 単位未満は切捨て。

(注3) ( )内は株式分割、予約権行使、合併等による増減分で、上段の数字には含まれておりません。

## ○株式売買比率

(2016年10月28日～2017年10月27日)

### 株式売買金額の平均組入株式時価総額に対する割合

項 目	当 期
(a) 期中の株式売買金額	518,473千円
(b) 期中の平均組入株式時価総額	1,176,215千円
(c) 売買高比率 (a) / (b)	0.44

(注1) (b)は各月末現在の組入株式時価総額の平均。

(注2) 金額の単位未満は切捨て。

## ○利害関係人との取引状況等

(2016年10月28日～2017年10月27日)

### 利害関係人との取引状況

該当事項はありません。

### 利害関係人の発行する有価証券等

種 類	買 付 額	売 付 額	当 期 末 保 有 額
	百万円	百万円	百万円
株式	15	15	72

利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人であり、当ファンドに係る利害関係人とはソルクシーズ、モーニングスター、SBIホールディングスです。

○組入資産の明細

(2017年10月27日現在)

国内株式

銘	柄	期首(前期末)	当	期	末
		株数	株	数	評 価 額
		千株		千株	千円
<b>医薬品 (0.3%)</b>					
	窪田製薬ホールディングス	—		6.4	3,840
<b>情報・通信業 (90.8%)</b>					
	イーブックイニシアティブジャパン	0.9		0.9	999
	ソルクシーズ	2.2		—	—
	ヤフー	925.7		954.7	507,900
	ソフトバンク・テクノロジー	1.7		3.7	7,733
	ソフトバンクグループ	76.1		63.2	650,644
<b>小売業 (2.6%)</b>					
	ベクター	2.3		2.3	1,343
	アスクル	9		9.3	28,504
	ブックオフコーポレーション	3.7		3.8	3,112
<b>証券、商品先物取引業 (5.3%)</b>					
	SBIホールディングス	36.5		37.6	68,093
<b>サービス業 (1.0%)</b>					
	アイティメディア	3.3		3.4	2,223
	バリューコマース	5.6		5.8	5,080
	モーニングスター	13.6		14.1	4,864
	サイジニア	0.3		0.3	570
合 計	株 数 ・ 金 額	1,080		1,105	1,284,910
	銘 柄 数 < 比 率 >	13		13	< 95.5% >

(注1) 銘柄欄の( )内は、国内株式の評価総額に対する各業種の比率。

(注2) 合計欄の< >内は、純資産総額に対する評価額の比率。

(注3) 評価額の単位未満は切捨て。

(注4) —印は組入れなし。

## ○投資信託財産の構成

(2017年10月27日現在)

項 目	当 期 末	
	評 価 額	比 率
株式	千円 1,284,910	% 95.5
コール・ローン等、その他	60,713	4.5
投資信託財産総額	1,345,623	100.0

(注) 評価額の単位未満は切捨て。

## ○特定資産の価格等の調査

該当事項はありません。

## ○資産、負債、元本及び基準価額の状況 (2017年10月27日現在)

項 目	当 期 末
	円
(A) 資産	1,345,623,159
コール・ローン等	58,672,459
株式(評価額)	1,284,910,000
未収配当金	2,040,700
(B) 負債	238
未払利息	160
その他未払費用	78
(C) 純資産総額(A-B)	1,345,622,921
元本	794,857,061
次期繰越損益金	550,765,860
(D) 受益権総口数	794,857,061口
1万口当たり基準価額(C/D)	16,929円

<注記事項>

(貸借対照表関係)

期首元本額	845,513,787円
期中追加設定元本額	185,829,641円
期中一部解約元本額	236,486,367円
期末における元本の内訳	
ソフトバンク&SBIグループ株式ファンド	794,857,061円

## ○損益の状況 (2016年10月28日～2017年10月27日)

項 目	当 期
	円
(A) 配当等収益	15,045,331
受取配当金	15,069,608
その他収益金	80
支払利息	△ 24,357
(B) 有価証券売買損益	397,012,741
売買益	413,910,846
売買損	△ 16,898,105
(C) その他費用	△ 663
(D) 当期損益金(A+B+C)	412,057,409
(E) 前期繰越損益金	167,051,725
(F) 追加信託差損益金	87,170,359
(G) 解約差損益金	△115,513,633
(H) 計(D+E+F+G)	550,765,860
次期繰越損益金(H)	550,765,860

(注1) 損益の状況の中で(B)有価証券売買損益は期末の評価換えによるものを含みます。

(注2) 損益の状況の中で(F)追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。

(注3) 損益の状況の中で(G)解約差損益金とあるのは、中途解約の際、元本から解約価額を差し引いた差額分をいいます。